

平成 29 年 6 月 9 日（金）私と英語科の礎塚先生で久宝寺緑地管理事務所に 36 期生の片岡美穂さんをお尋ねしました。

片岡さんは園芸療法士と通訳案内士の資格をお持ちで、現在は久宝寺緑地管理事務所で緑地の管理運営をしている会社（美交工業）にお勤めです。

実は 5 月 7 日に久宝寺緑地の芍薬園で本校茶道部にお点前の依頼が片岡さんからありました。その折、八尾高 OG であることと園芸療法士という資格をお持ちとお聞きしましたので無理を言ってインタビューのお願いをしましたところ快く引き受けていただきました。

公園事務所の会議室でインタビューの冒頭、「紆余曲折の人生なので説明が難しいのですが」と前置きをされ、お話がスタートしました。



○大きな決断（自費留学）



大学受験が上手くいかずアルバイトでお金を貯めて 19 歳で 1 年間、オーストラリアへ単身自費留学をされたそうです。英語が得意でもなく、英会話が全くできなかったそうです。「外国の人と話がしたい、そんな気持ちで、大胆な決断だったと思います。」とのこと。

帰国後、京都の夜間大学で英語を勉強されて、色々な仕事をされたとのこと。その一つが「海遊館の運営ディレクター」、人との出会いや紹介があったと笑っておられました。

時がたち、片岡さんのお祖母様が自宅にいた時は一人で生活して行けたのに、老人ホームに入った途端、数か月で逝去されたとのこと。このことをきっかけに介護、特に園芸療法士になろうと思い立ったそうです。

（園芸療法士の仕事内容は下段に注を付けましたのでご覧ください。）

○海外へ再び（園芸療法士の資格を求めて！）

当時、日本では園芸療法士の資格が取れる場所がなく、探していくうちに学べる場所がアメリカのカンザス州立大学にあることがわかり、30 歳を過ぎていましたが思い切って挑戦されたそうです。

カンザス州立大で学士と修士合わせて 7 年間勉強、そして大学院の友人の紹介でコロラド州の知的障がい者の施設で就労支援を中心に 7 年間働かれたそうです。アメリカの永住権を取るかを悩まれましたが、ご両親のために日本に帰国してきたそうです。

とは言っても帰国後仕事が決まっていたわけではなく、仕事探しを始められた。ふと、八尾駅の下のサービスコーナーに置いてあった、久宝寺緑地の季刊誌の中の「ヒーリングガーディナー」のボランティア（久宝寺緑地で高齢者や障がいのある方を案内するボランティア）の募集を見てボランティアとして参加するうちに、久宝寺緑地を管理している今の所属の美交工業という会社に勤められたそうです。

○「going with the flow」と「人の縁」

片岡さんは選択肢で悩む時は「流れのままに」上手くいく方向に身をゆだねていくようにしているそうです。振り返って「良かったなと思える人生であれば」と思いますとのこと。

ただし、海外で必要なスキルとして「危険を察知する能力」は必要と経験談を交えお話いただきました。特に女性は必要とのことでした。

お話を聞いていると謙遜されていますが、人生の岐路で大きな決断を何度もされている。その分岐点で「人の縁をキャッチする」ことを大切にしておられるように感じました。



○英会話へのアドバイス

片岡さんは最近、通訳案内士の資格も取られています。英会話について在校生にアドバイスをいただきました。受験勉強の英語で文法を学んでいたおかげで留学の1年間で他国の留学生に比べると「上達の度合いがすごく速い」と先生から褒められたそうです。

受験勉強も大変だと思いますが、「会話をするベースは文法にあり」、これからの在校生へのエールになると思います。

最後に在校生の皆さんには久宝寺緑地を是非活用してほしいと言われていました。軽音楽部や生物部大歓迎だそうです。

先輩がお勤めですので、久宝寺緑地公園事務所に相談してみましょう。

片岡さんご協力ありがとうございました。



注) 園芸療法士

福祉、心理、教育、医療等で様々な活躍できる資格です。

園芸療法は草花等の植物や自然環境を通して心身の健康の回復や癒しを図る療法です。多様な分野で活躍できる資格です。

例 福祉分野

障がい者施設や引きこもり支援等で活躍の場があります。介護福祉士や社会福祉士、ホームヘルパーの方々が園芸療法士の資格を合わせて持たれているケースもある。

教育関係、不登校、引きこもり、発達障がいの方々が園芸を活用して、コミュニケーション能力の改善や自身の回復等にも活用